水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

1	ことは 山菜 絵夢	値引きしたセロリは何かいひたさう	傘張り浪人
		野菜高騰のこの冬、セロリの言葉に耳を傾けたいですね。そこまでご同情されましたか。合掌。セロリをほかの野菜に変えても楽しい句。	
2	楽 一駄歩	餅搗きの妻の濡れ手にスマホかな	米山カローリング
		スマホはどんな時も手放せません。無さそうで有りそうな情景。	
3		大雪や行平鍋の味噌拉麺	檜鼻ことは
4	俳爺 楽 ひろ志	二人して孫の写メ観る日向ぼこ	宇田靖之
		孫からの写メをうれしそうに観る祖父母にさらにほっこりする日向ぼこになった。私も孫が欲しくなりました。孫からの写メ、何が写っているのだろう。	
5	好子	妻に似た笑顔眩しき雪達磨	森　佳月
6	楽	年用意をゑコップ酒老主筆	瞳人
		お疲れさまでした。	
7	允孝 素風 蝸牛	瑞光の満つる母郷の初山河	破れ蓮
		故郷の山河はさぞかし清々しかったことでしょうね。晴れやかな元旦の風景が詠まれている。「瑞光」という措辞が適切である。	
8	マスミ 暮風 かれん 山菜 あらか 絵夢	毛糸編む魔法の棒に操られ	岩本展乎
		毛糸編みに手慣れた方なのであろう。魔法使いが操るように、作品は仕上がってゆく。毛糸を編むのを魔法の棒に操られてという表現が良かった。眠りの森の魔女の気持ちです。編み物に没頭している様を「魔法の棒に操られ」と表現している点が興味深い、と思いました。完成品を身に着けるとマジシャンになれそう。	
9		客用の布団の並ぶ冬座敷	新井のり子
10	みづる	横溢の眼間にあり枯はちす	衛
		骨のようになった枯蓮の池だが、その内に新たな力を蓄えているかのようだ。	
11	音思	初席や縁起かつぎの太鼓鳴る	一駄歩
		今年こそブレークを期待したい気持を表している。	
12		霜日和青信号を早番へ	しーしー
13	俳爺 破れ蓮 朝香 凡士 蝸牛 田猫	遠富士の影きはやかに初御空	松田素風
		影きわやかにが正月の富士を物語っている。元旦の空にくっきりと浮かび上がる富士の遠景が見える。新年の格調高い句です。「きはやかに」の措辞がいいですね。今年は好天の三が日、さぞかし富士も輝いていただろう。初御空に相応しい光景を詠んでいる。新年に相応しい句。	
14		雪深し柿の実喰らうカラスあり	大塚好子
15	しんい	只管に前へ前へと初詣	ひろ志
		身動きもままならず押されるままですものね。	

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

16	光雲2	城壁の栄華を見知る寒椿 たしかにそうだなと心当たりありです。	幸子
17	ことは	寒の内老いて目につく微塵かな	高原ひろし
18	喜夫 幹子	無惨やな極寒のビル傾ぐまま ビルの老化に例え老人のエゴの醜悪さを描かれたのか？無残やな。能登大地震と豪雨災害の事を思いました。一向に復興の進まぬ映像に心痛みます。	秋谷風舎
19	一駄歩	現世を日延べし太る氷柱かな 葉書も値上がりし良い機会ですね。当今の世の中を良く表現している高齢化又郵便料金の値上げなどが理由か。高齢、電子年賀・・・いろいろ事情はあるものの、何かさみしいものがある。	煩桜
20	総太郎 ひろし 風子 たか子 鶴城	年賀状一人二人と仕舞状	いさむ
21	彩香	淑気満つ喜寿の社長の長眉毛 長眉毛の措辞が素晴らしく、福々しいさにめでたさが加わります。	新　暦文
22	土璃	肩先にくの字重ぬる六花かな	岩清水彩香
23	マスミ 六弦 瞳人 町子 鶴城	健吟の古希喜寿米寿初句会 後期高齢者が賑やかに集う初句会。なんとも目出度い。何よりです。年ふれど句詠む人こころ清かに。うちの句会も７０代８０代頑張って ます。俳句は認知症予防にいいのかしら。とにかくどこの句会も平均年齢が高い。	俳爺
24	光雲2	否めずに香を放ちぬる沈丁花	網野月を
25		過ぎしこと下へ下へと除夜の鐘	みづる
26	山思 米音	団らんの真ん中にあり絵双六 真ん中に有りが良いと思う。子沢山の暖かい家庭のひとこまをうまく捉えている。	荒一葉
27	暮風	胸張りて神の使ひや初鴉	立野音思
28		プラチナの初日へ合はす掌	光雲2
29	大越 総太郎 浪人 破れ蓮 暮風 のり子	孫帰りおのれに返る松三日 孫の相手が終わってほっとした気分を「おのれに返る」と上手く表現されていると思います。お孫さんさんの来訪はうれしいことなれど、非日常の連続で疲れますよね。お孫さんと楽しく過ごした正月が想像される。孤独と自由は紙一重。	安田蝸牛
30	土璃	注ぐ湯の音の華やぐ初御空 目出度さが伝わります。	くるみ

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

31		福娘笹に付けたし戎顔	酒井癒香
32		まだ知らぬ明日はひたひた初暦	大越マーガレット
33	展乎 かげろう ひろ志	日溜まりや花びら餅の紅ほのか 新年の上品なぬくもりがあります。ほのぼのとした美しさを感じる。日溜まりの暖かさに包まれた中、花びら餅の色・香・味を楽しんでいる。	かれん
34	佳月 風舎	わだかまり神に預けて年迎ふ これができれば良いですね。たわいもない口喧嘩も、仲が良く、幸せな夫婦生活の証左である。おめでたい句であり、更なるご多幸をお祈りします。	青木鶴城
35		すなどりの船の勇ましき初日の出	横井あらか
36		過ぎし日々子と語らひて老の春	大束暮風
37	光雲2	初鴉吉兆の声ひびき満つ	しんい
38	月を きいち	冬牡丹の開かぬ蕾かぶせ藁 叙景句の静かさを覚えます。観察力に感心しました。	小野町子
39	風子	空耳か響く琵琶の音初弁天 正月早々弁天様の琵琶を聴くとは今年は良い年になりますよ。	丸山マスミ
40		満を持し魚釣に行く三日かな	龍野ひろし
41	しんい 町子	名がふたつ云へずに吹くや七草粥 七草の歌を囃すと出てくるかも。毎年、七草全部言えない。よくあること。早く食べちゃいましょう。	河野凡士
42		年の瀬や担保競売自己破産	染谷風子
43		この話前にもしたね帰り花	小林土璃
44		朝刊の活字踊るや白き梅	朝香
45	文 高原 暦	霜焼けの耳に久しき妻の愚痴 霜焼けの耳に妻の愚痴は辛い。	後藤允孝

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

46	挨拶を終ふ葉書や初便り	賀状終いの句でしょう。ＬＩＮＥやＳＮＳにより居場所がなくなりつつある初便りです。	平野楽
47	路上駐車客も溢るる正月よ		総太郎
48	向かい風受けて笑いて年新た	かにかくに年新たなれば。強風にも負けない豪快な哄笑なのだろう、と思いました。	霜里
49	ゆらゆらとジンのグラスや冬の海	心の揺らぎまで感じられました。	ふみお
50	奥宮の太き木立や年明くる		岡本たか子
51	大寒の雲は重たし那須五峰	「雲は重たし」の表現が斬新である。那須五峰には、黒い雲がかかり、しんしんと雪が降っているという景が浮んでくる。那須五峰が具体的で景が立ち上がってきます。	渋谷きいち
52	恋の糸結びほつれししぐれ道		絵夢
53	幕間は春着の勝負砂被り	華やかな景がよく見えます。たしかに大相撲の中継を拝見していますと着飾った見目麗しい女性たちの姿に気をとられてしまいます。初場所の砂被りは観客も勝負ですね。	岡崎梗舟
54	医院長の笑ふ看板年新た	何を笑うやレニン像。	石関六弦
55	本当は男の子なの雪女	ついにカミングアウトの雪女ですね。とうとう雪女もジェンダーとなったか。思わず「どゆこと！？」と声が出ました。忘れ難いインパクトです。そんなことをカミングアウトされたら、なお怖い。	松橋春水
56	鮟鱇や七つ道具は蒔絵箱	鮟鱇と蒔絵箱の取り合わせが良い。同じ色味の季語と蒔絵箱。何の仕事か、想像力をかき立てる句。	森下山菜
57	金色の折羽鶴かな初明り		雪待月田猫
58	埋め尽くす灯台の丘野水仙	初春の美しい情景描写が素晴らしい。	佐藤幹子
59	大寒や小鳥とびかう空のあり		椿
60	細氷や朝の窓辺のキラキラと		かげろう

46	俳爺		
47			
48	瞳人 あらか		
49	順一		
50			
51	ひろし 風舎 くるみ		
52			
53	大越 土璃 浪人 かげろう		
54	煩桜		
55	ことは 凡士 あらか しーしー		
56	米山 田猫		
57			
58	たか子		
59			
60			

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

61	凍て星にテムジンの声天を衝く 季語が効いて、骨太の力強さを感じます。	展乎	持永喜夫
62	蓮の骨満たされし水は腐食せぬ		石川順一
63	神棚に供なふ雑煮は八分目		米山カローリング
64	割烹の女将は同郷燗の酒 共通の故郷の話しで盛り上がっています。同郷の女将とどんな会話をされているのでしょうか。燗のお酒もさぞ美味しいことでしょうね。	春水 幹子	檜鼻ことは
65	人間もお化けも猫も冬館		傘張り浪人
66	水餅に共に入れたる母の愚痴 水餅も母の愚痴もどちらも懐かしい。西の方では丸餅を水瓶に入れて保存食としていましたが愚痴まで保存？	のり子 鶴城	森　佳月
67	初暦昭和百年といふ睨み 日本の１００歳以上は約１０万人，昭和が懐かしい。	暦文	瞳人
68	冬の夕君の手ぬくめる我がポケット 水餅も母の愚痴もどちらも懐かしい。		宇田靖之
69	一日にひとつ銅鑼打ち冬籠 筋は通して寝正月？	煩桜	岩本展乎
70	万両の実の閑寂と庫裡の陰 ひっそりと実を付けた万両が表現されている。冬の寂しさが伝わりました。	素風 きいち	破れ蓮
71	初詣神社をはしごした昔		衛
72	亡き人に逢える気配や寒椿 亡き人への思いの強さが気配を感じ取れるまでに高まっていると感じました。寒椿の赤が印象的でした。リズムが良い。妣に会いたい心が募ります。	ふみお 好子 米山 月を	新井のり子
73	日本海の吹雪へ据えるミラーレス 怒涛の中の吹雪の情景をいかにカメラに収めるか苦労しているカメラマンの姿が眼に浮かぶ　きっと、傑作が撮れたでしょう。カメラ好きには冬の日本海は絶好の撮影ポイント。	たか子 凡士	しーしー
74	光り満ち雪さらす手に山の風		一駄歩
75	堅雪を渡るカラスの素足かな 雪上の烏の足跡が目に浮かぶ。	のり子	大塚好子

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

76	破れ蓮 六弦 蝸牛	雪掻を済ませて子等の通ふ路 社会全体で子どもを看るという姿勢が素晴らしい。雪国の苦労に頭が下がります。沿道の皆様のご苦労が思われる。	松田素風
77	一葉	一鋏如上り下り松手入れ	幸子
78	ふみお 順一 朝香 山菜	寒に入るレバー多めのにら炒め 精力がつき、庶民的なレバーにら炒めと寒という寒い季節がマッチしていて良かったです。レバーを奮発した、ニラ炒め。何かおまじないみたいな意味を持たせたのかもしれません。寒い冬には栄養のある料理を食べるのが一番ですね。寒いときには食いたいたいなあ。	ひろ志
79		犬どもの戯れ合ひ余所に御慶かな	風舎
80		断捨離のわが庵ぬくし冬灯	高原ひろし
81		大晦日鍋ふつふつと二人夜や	いさむ
82		絵描きには踊るヤパンの臥竜梅	煩桜
83	朝香	初声や鳩くくくると隣家より 鳩の声も新年だと新鮮に感じる。「鳩くくくると」の表現が秀逸。	岩清水彩香
84	マスミ くるみ	奥能登の蒼白き月冴返る 地震や、大雨の被害を知らぬかのように蒼白く冴える能登の月。美しいが故に非情さも伝わる。やや既視感がありますが、冬の奥能登の夜の景として迫力のある句だと思います。	新　暦文
85		どさまはりのしがない恋や春まけて	網野月を
86	絵夢	めでたきや新婚さんの初礼者 幸せな淑気に満ち溢れている。	俳爺
87	展乎 六弦 町子 みづる	赤ちゃんもペットもよそ見初写真 ほほえましい風景が伝わってきます。微笑ましいですね。仕上がった写真を見ると、こっち向いていないペットや赤ちゃんあるあるです。初孫？にペットも加わり全員集合、よそ見も愛嬌、幸せの一枚。	荒一葉
88	ふみお 一葉	蝋梅の花びらに透く梢かな とても繊細な感覚を詠んでいて良いと思います。	みづる
89	月を 喜夫	寒月やフワッと昇る観覧車 観覧車の様態が目に浮かぶようです。知らない間にフワット登って去ってゆく観覧車、何気なく見過ごされていく人生を寒月だけが見ているのか？	光雲2
90	春水	無愛想隠すマスクや出勤日 無愛想の理由が読み手の想像を広げさせています。	立野音思

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

91	かげろう	寒晴や本堂の香透きとほる	香り透き通るの表現がよい。	くるみ
92	佳月 ひろ 煩桜し 素風	春著着て他人行儀の娘かな	大人びた娘に少し寂しい気分。嫁になる日が来なけりゃいいが…	安田蝸牛
93	浪人 みづる	双六より花札が好き酒を持て	「酒をもて」。いってみたいですね。張り倒されそうで口が裂けてもいえませんが……。正月の晴着姿の娘さんの所作・振舞が微笑ましい。酒を飲みつつ花札をめくるのも正月ならではの至福。	大越マーガレット
94		簗火草微かに香り来し方へ	思い切った表現が良い。	酒井癒香
95	音思	張り裂けてしまへ吾が胸寒椿		青木鶴城
96	しんい 彩香	振り返る足裏ももいろ嫁が君	鼠の足の裏のももいろに注目したこと。嫁が君の由来に「ももいろ」が響き、振返る足裏の措辞が深い。	かれん
97	くるみ	小寒の夕陽ほのかに暖かし	新年を迎えて間もない一月の夕陽はこんな感じでしょうか。	大束暮風
98	かれん	元旦や海魚の跳ねてまた跳ねて	海魚の跳ねる、跳ねると繰り返したこどで元日の目出度さが感じられる。	横井あらか
99		不忍の池枯蓮の茎ポキポキと		小野町子
100		松明の路地にただよふカレーの香		しんい
101		ぼろ市の人の流れに眩暈かな		龍野ひろし
102	風子 しーしー	ギリシャ神遊ぶ天空星冴ゆる	星座はギリシャの神様が多いですね、夢のある句。惑星の揃い踏みですね。	丸山マスミ
103		吾を呼ぶ肉付き良かる雪女郎		染谷風子
104	越文 大暦 高原	“生”の字に石ひとつ積む阪神忌	もう30年ですね　忘れないでいましょう。あれから30年・当時の画像が頭から離れない。	河野凡士
105		太鼓ライブの腹にひびくや寒の晴		朝香

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

106	佳月 瞳人 田猫	粗衣裸足仁王の前の春着かな 春着が一層映えますね。比べてみて何おもふ。華やかな着物の少女が浮かぶ。季語との色彩の対比が鮮やか。	小林土璃
107		唯願ふ家内安全初詣	平野楽
108		円陣を組むラガー児ら息白し	後藤允孝
109	允孝 春水	大寒や拳も固き人の波 一年で一番寒い大寒は手も足も凍る寒さです。寒さがしんしんと身に沁みます。拳という着眼点が素晴らしい！	霜里
110	彩香	木枯や菩提寺の僧蓄髪す 菩提寺の僧の蓄髪。色んな思いが浮かびます。	総太郎
111	一葉 かれん	一湾の帯のやうなる春夕焼け 一湾の帯という表現が良かった。	岡本たか子
112	喜夫	落鱸怒れるときは口を閉ぢ 鱸も人間も一緒で本当に悔しいときはただ無言で葉を食いしばる、頑張れ。	ふみお
113		公園の朽ちし木伐るや虎落笛	絵夢
114		買出しに大福追加寒波来る	渋谷きいち
115	順一	春近し幾つもこなす露店商 何か春の言祝ぎと言うのか、先触れのような感じに、露天商をいくつもこなす内容が合っているようで取らせて頂きました。	石関六弦
116	ひろ志	肉球に触れて添い寝の小六月 初冬でも愛猫と同衾なら温かい。	岡崎梗舟
117	高原	成人祭鳶舞ひ神輿海に入る	森下山菜
118	きいち	別れ歌だけの便りや冬銀河 冬銀河でしゃれた別れが見えました。	松橋春水
119	総太郎 允孝 風舎	身の丈に合わせる暮らし去年今年 身の丈に合わせる暮らしとはどのような暮らし方なのか、そこが知りたいですね。淡々としつつも、充実した暮らしを、人生を、おくられている作者がうかがわれる。羨ましい限りである。	佐藤幹子
120	しーしー	四日ぶりレジのお仕事初鏡 日常が始まる、気合いの入る鏡です。	雪待月田猫

水明インターネット句会（選句・選評）　令和七年一月

121　幹子

寒い日に温かな鍋を囲み、食卓に湯気が満ちている家庭の団欒が浮かびました。

初鱈や土鍋の蓋のコトコトと

かげろう

122

大寒や鳥居過ぎれば鳴る太鼓

椿

123

葉牡丹の並べば学校近く有る

石川順一

124　好子

これから老境に入る私達夫婦の気持にピッタリです。

新景色分け行く二人の小径かな

持永　喜夫